

# こども 教育も 文化

第5号

もくじ

体温の学習

俺は変わりたい!

『ピリプ』の思い出

自然を好きにするために

宮城の教育遺産<sup>5</sup>

衝撃を与えた広瀬小学校綴方研究会

廣瀬綴方学校參觀記

吉田 茂 : 1

佐々木大介 : 7

高橋 律子 : 10

伊藤 裕一 : 16

中川 正人 : 17

丘 幾之助 : 19

## 体温の学習

吉田 茂

### 1 ホメオスタシスの典型としての体温

「先生、ちよつと具合が悪いんですが。」

「じゃ、体温を測ってみるか。」

「先生、36・7度でした。」

「そうか、それじゃ家に帰るまでもないかな。静かに過ごして様子を見よう。」

具合が悪い子どもたちとこんな会話をするのは、日常茶飯事である。教室用の体温計で熱を測りながら、どんな感じがするかを聞く。子どもたちは、「熱っぽい」「からだが熱い」「寒気がする」などの「異常感覚」を訴えてくる。なかには、39度台まで熱を出して、保護者に連絡して迎えに来

てもらうこともたびたびある。

体温は、子どものからだだが正常に機能しているかどうかを知るうえで、とても重要なバイタルサインであり、ちよつとの発熱でも私たちの健康状態は異常をきたす。

休み時間に校庭で思いつきり遊んで教室に帰ってきた子どもが、

「先生、からだか熱い、汗を一杯かいちゃった。」

「ハンカチは持ってきた。ちゃんと、汗をふいておくんだよ。」

「持ってきていなかった。」

「でも、どうして、汗が出てくるんだろう？」と、運動をしたあとにかく汗に対して疑問をつぶ

やく子どもがいる。運動に伴って生産された熱によって、体温が上昇するのを防ぐために発汗されるのだが、このことは、私たちの意志に関係なく行われている（自立性体温調節）。

授業中に、

「先生、寒いので、窓を閉めていいですか。」

「どうぞ。」

と、「寒い」というからだからの「異常感覚」をうけて、自分の行動でその状態を回避するということも、教室の中で、当たり前に見られる光景である（行動性体温調節）。

教室には、当然ではあるが、生存するための最も基本的な必須の条件である体温調節（ホメオスタシス）に関するものが数多く存在し、私たちのからだは、自律性体温調節、行動性体温調節で常に一定の体温に維持されている。しかしそれは、無意識的無自覚的な段階にとどまっている。

### 2 体温とは

体温を文字通りに読めば、からだの温かさ、である。それは主に腋の下で測定され、そこで測られた温度が体温と呼ばれている。だが、なぜ腋の下で測ったものが体温なのか。当然ながら、からだの温かさはからだの部位によって異なり、それは、環境の温度によっても変わってくる。夏には焼け付くような暑さで皮膚が高温になり、冬には寒さで手足が凍えたりする。そのような生活体験からも、そのことがわかる。

体温の教材研究を通してわかったことは、環境の温度が変わっても変わらない部位がある、ということである。図1-1の室温20℃のときの黒い部分である。この部分は、核心部と名づけられており、その温度は核心温といわれている。それに対して、環境の温度が変わると、その温度が変わる部分は、外層部と名づけられており、その温度は外層温といわれている。

核心温は、体温調節によって一定の狭い範囲内の温度に維持されている。外層温は、核心温を調節維持するための熱放散の効果器として働く。

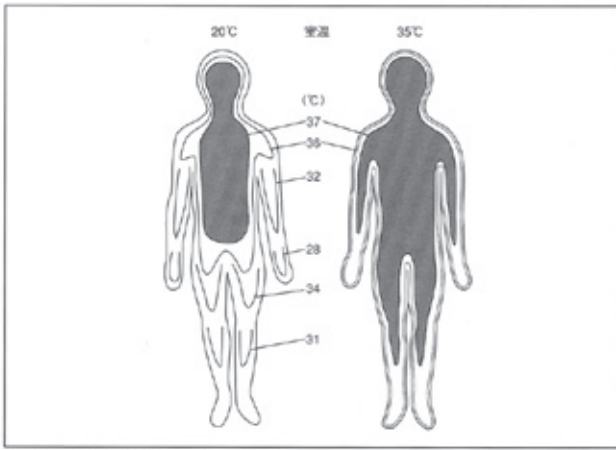


図1-1 生体内部の温度勾配  
室温20℃と35℃における等温線  
(Acheff J: Wechselwirkungen zwischen Kern Schale im Wärmehaushalt. Arch. physikal. Therapy 8: 113-133, 1956)

### 3 授業記録

#### (1) プロローグ 「生きている証拠探し」

4月13日(火)

T 3年生になつてはじめての体育は、「生きている証拠」探します。

みなさん、生きていますか。

生きています。

生きています。

生きています。

生きています。

生きています。

生きています。

生きています。

生きています。

生きています。

生きています。

生きています。

生きています。

生きています。

生きています。

生きています。

生きています。

生きています。

生きています。

生きています。

生きています。

生きています。

生きています。

生きています。

生きています。

生きています。

生きています。

生きています。

生きています。

生きています。

たちにとつても、初めて取り組む授業だった。どのような展開になるのか予想がつかなかったが、思っていた以上に子どもたちは、この活動に集中して、生きている証拠を探そうとしていた。寝て

いる友達をじつと見つめる子、こわこわと友達のからだに触れている子、友達のからだに触れると相手のからだに反応することが楽しくて、笑い声を上げている子。そのような子どもたちの活動で、

「見て探す」活動では、目やお腹、なかには脈の動きまで見つけ出した。特にお腹の動きの発見は、呼吸に結びついているので丁寧に対応した。

次に「触れて探す活動」である。ここは、体温の学習にもつながる活動になる。

C お腹が動いていた。

T どうしてお腹が動くのかな。

C 息をしているから。

T 息をしていたからか。じゃ、お腹が動かないようにずっとしていたら、どうなるんだろう。

C 死んじゃう。

T じゃ、これは生きている証拠だね。

C 手があたたかかった。

C 心臓が動いていた。

C 手で心臓の動きがわかった。

C 手を触ったら冷たかったから死んでいると思うけど、心臓のほうを触ったら動いていたから、ちゃんと生きていると思った。

からだ温かいということは、生命活動が行われていることを物語っているのである。また、そのことは、心臓の動きでも確認することができる。

あたり前のことだから、このことを自分のからだ

の感覚でとらえることがとても大切なのである。からだとの触れ合いなしに、いのちに対するいとおしきは生まれてはこない。

動かされて動くことを大いに楽しんでた。3年生らしい反応で、立派に生きている証拠と言える。最後に、

T 「生きている証拠」がいっぱい見つかって、みんなは、やはり生きていましたね。HくんもTくんも生きていることがわかって、よかった、よかった。

と締めくくって、この授業は終わった。子どもたちはこの学習で、呼吸、体温、心臓といったバイタル(生きている)サインを見つけ出したことになる。

## (2) 「からだの温かさを感じよう」

9月21日(火) 1時間目

T 4月に「生きている証拠探し」をしたのを覚えていますか。

C 覚えている

C 忘れちゃった。

T そこで、生きている証拠をいろいろと探してもうりました。思い出して、生きている証拠を発表してください。

C 笑ったり、目をパチパチさせた。

C こちよこちよしたら、笑った。

C 心臓が動いていた。

C からだに触れた時にわかったのですね。

C お腹がびくびく動いていた。

C からだに触ったときに、あたたかかった。冷たかったら生きてないけど、あたたかかったから生きている。

C 唇が紫になっていけば死んでいるけど、赤くなっていればまだ生きている。

T みんなの中で、死んだ人を見たことある人。

C (10名前後、手をあげる)

T いるんだ。11人の人たちが見たんだ。実際に死んだ人の中からだに触れてみたことがある人。

C (3人手をあげる)

T 家族だと、最後のお別れのときに触れたりするのよ。触れた時に、冷たかった。

## (3) からだの温かさを感じよう

自分のからだに自分の手で触れて、  
からだのあたたかさを感じ取る

死んでいる人のからだは冷たい、という子どもからの発言を受けながら、生きているからだの温かさを感じ取る学習に入った。自分の頭、腕、手、背中、お腹、腿、足の指などに自分の手で触れさせて、その温かさを感じ取らせた。

子どもたちからは、「足は冷たい」「おでこは温かいな」「手の平が温かいよ」「背中も温かい」「太ももは冷たい」「首が温かかった」「おでこが熱かった」「手がぬるい」「腕が冷たかった」などの発表が出された。

からだの場所によって温かさが異なることは、子どもたちにとつては、驚きであり、意外な事実だったようである。

「からだの体温で、おなかの下がつめたくて、上のほうがあたたかかったです。おでこもあたたかかったです。すこいなあって思ったことがあります。なんで人の体温はかわっていくの、だろうかと思

ました。」(R)

からだ全体が同じように温かいというようにとらえていたから、た観がこの学習で大きく変わり、その理由が知りたくなってきたことが、Rの感から伺える。

友達のからだに触れて、

からだのあたたかさを感じとる

次に、友達のからだに触れて同じような活動を行った。

子どもたちからは、「お腹の半分はあたたかくて半分は冷たかった」「おへそがあつて、こつち(頭側)はあたたかくて、こつち(足側)は冷たかった」「手はぬるかった」「足は冷たかった」「おでこ首は熱かった」「手首が冷たかった」「腕は冷たかった」「ほっぺはぬるかった」「足の指の親指がぬるかった」「わきの下はあたたかかった」「足首がぬるかった」「首の半分が熱かった」「頭が熱くて、へそのしたあたりから冷たかった」などの発表が出された。

友達のからだに触れることによって、さらにからだの部位による温かさのちがいがはつきりしてきた。やはり、脳、肺、胃腸、肝臓、腎臓などの重要臓器がある核心部の体表温度が高く、手足などの外層部は低いという結果を、子どもたちは手で探りあてることができた。

「一番調べておもしろかったのは、友達の体を調べたことです。私とちがう所がいっぱいありまし

た。まず、おなかは私のほうがつめたかったです。私のほっぺはつめたいのに、友達はおなかのつめはつめたかったです。同じあたたかさの所は、耳とおでこと手です。同じ所とちがう所があるなんてしらなかつたので、さすがにこれにはびっくりしました。今日は、しらないことばかりになりましたので、ものすごくべんきょうになりました。体温の学習はすごく楽しいです。」(H)

自分と友達とのからだの温かさを比較して、その違いに驚く子どもたちも出てきた。複数の相手と握手をしたとき、温かい手の人だったり冷たい手の人がいったりして、からだは人によつて異なることを実感することがある。同じようなことをHは友達の中から触れて感じている。しかも、ちがいのなかに同じ温かさを発見して、からだの不思議さを深めていた。

### 筋肉を使うと、

熱が生まれることを実感する

からだの熱は主に、安静時には内臓で、運動時には筋肉で産生される。子どもたちには後者の熱の産生が実感としてわかりやく、実際に体験的に確かめることができるので、本時では、筋肉に絞つてからだの熱について考えていくことにした。

どんな時に、からだの温かくなつたと感じたかを聞くと、「一生懸命考えたときに、頭があつくなつた」「お風呂にはいったとき」「からだを動かした時に温かくなつたよ」というような発表が出された。そこで、

T からだを動かすには、何を使うの。  
C 筋肉を動かす。  
C 足の筋肉を動かす。  
T 筋肉を使うと熱が生まれる。ほんとうにそうかどうか、筋肉を使って遊んでみよう。

ということ、思いっきり遊ばせた。子どもたちは大喜びで体育館中を走り回つた。

C すごく熱くなつた。  
C 汗も出てきた。

T やはり、筋肉を使うとあたたかさが生まれたね。いまみんなは休んでいるけど、体の中で筋肉を使つて動いているところがあるんだ。どこだろう？

C 心臓

T 心臓は筋肉でできているんだよ。いま、ドクドクと動いているでしょう。動くとも熱が生まれる。

生きている時は、どこか動いているから温かさが生まれる。一生懸命考えるということは、脳の中がいろいろとはたわいてるから熱が生まれる。

### 放射温度計でからだの温度を測つてみよう

これまでは、からだの感覚で温かさをみてきたが、より客観的な数値としてそのことをみるために、放射温度計を使って測定してみた。体表の温度は、低いところで31℃台、高いところでは33℃台だった。体内の温度と比べるとだいぶ低い温度であるが、そのことに子どもたちはなんら疑問を感じていないようだった。

さらに、運動をしてからだの熱くなつたところで測つてみた。すると、意外な結果が出た。運動する前よりも、体表の温度が低くなつ



てしまった子がたくさん出てきたのである。これは、予想されたことであるが、汗が出るのと急激に体温が下げられるということを知らない子どもたちにとっては、大変な驚きである。

「体の温度をはかったら、31・6度でした。そのあと、おにこをいっしょにしていた友達が、さつきよりさがつていてびっくりしました。はじめて、体温はあがつたりさがつたりすることがわかりました。あがつたりさがつたりするのにはりゆうがあるんだよ、と先生がいっていたのでかんがえていました。どうしてもりゆうがわかりませんでした。でも、体のことを知つたと思いました。」(Y)

教室に帰つて授業の感想を書かせていると、一人の子が、「おかしいな、家ではかる体温は、36℃くらいなのに、どうしてだろう。」という疑問を書いていた。この感想を読んだ時、授業中にその子が私のところに来て、放射温度計を使ってわきの下の温度を測つてほしいと言ってきたのを思い出した。すでにその時、その差に気づいて疑問に思い、確かめようとしていたのである。

### (4) からだの表面と

からだの中の温度のちがい

2時間目 9月22日 2校時

からだの表面(皮膚温)と

からだの中(核心温)のちがいに気づかせ、その温度差について考えさせる

T 昨日Oくんがね、家庭の体温計と放射温度計で測つた時の温度がちがうことが不思議で、先生のところに来て、わきの下の温度を測りまし



た。でもこの機械で測ってやったら、やはり33.2度くらいだった。Oくんは、へんだなあ、という顔をしていました。でも、その時には、わきの下を開いた状態で測ったんだけどね。わきの下にはさむと、どこかの温度がわかるんだろう。

C 先生、口にくわえて体温を測る時もあるよ。

T そう、口に入れたり、耳の穴に入れたりして測る時もある。もうひとつあるんだよ。お尻の穴に入れて測る時もある。わきの下にはさんだり、口の中に入れたり、お尻の穴に入れたりして、どこかの温度を測っているのさ。

C 体の中かな。

C いいと思う。

T そうなんだよ。体の中の温度を測っている。すると、昨日は、どこかの温度を測ったかという、

C からだの表面を測っていた。

T そうなんだ。昨日はからだの表面、つまり皮膚の温度を測っていた。からだの表面とからだの中では、だいぶ温度がちがうね。どうしてこんなにちがうのさ。

C 外の温度が低いでしょう。だからじゃないかな。

T うん。

T いいところに気づいたね。教室の温度計でこの温度を調べてみるよ。どれどれ、23℃だ。だからからだの表面の温度が下がってしまう、ということだね。

「今日の学習の中で一番たのしかったのは、からだの中をはかっている、とか、からだのひょうめんをはかっている、とかの学習です。じゃあ、私たちは体温計で体温をはかるときは、からだの中をはかっているんだあ、とはじめてしりました。」(A) 「ぼくは、ぎもんをもっていました。どうしてプールに入るとくちびるがむらさきになるのかがぎもんでした。でも、『からだって、すごいなあ……』とおもいました。くちびるがむらさきになるなぞがとけました。それは、プールのおんどでからだ

がひやされるからです。びつくりしました。」(K)

一人の疑問をきつかけにして、からだの表面の温度(外層温)とからだの中の温度(核心温)のちがいについて気づかせることができた。このことは、Kのように、これまでの生活経験のなかで疑問だったことを解決する重要な学びとなった。

(5) からだの中の温度は

いつも同じなのだろうか

3時間目 9月30日(金)

### みんなの体温(腋窩温)を発表しよう

T 体温計で自分の中の温度を測ってくる宿題を出しておきましたね。一人一人発表してもらいます。

C 36・7、35、36・3、36・5、36・2、36・4、

35・8、36・3、37、36・2、36・5、36・5、

36・1、36、36、36・4、36・3、36、36・5、

36・2、35、36・8、35・2、36・4、36・3

T という結果になって、35℃台が4人、36℃台が

22人、37℃台が1人となりました。このことから

わかることを発表してみよう。

C 人間は、だいたい36℃くらい。

C 人間は、36℃がちょうどいい。

C 人間は、35℃から37度くらいがちょうどいい。

全員の体温の発表が終わったとき、子どもたちの中から驚きの声が上がった。みんなの体温がほぼ36℃前後に固まっていたからである。自分だけの体温をみるだけではとらえられなかった人間のからだの体温が、このときみえたのである。だから、子どもたちは「人間は」という言い方で体温を発表したのである。

### 冬の寒い日、からだの中の温度は

どうなっているのだろうか

T 私たちの人間のちようどいい体温は、36℃台です。わたしたちは、いろんなところで生きています。たとえば、気温5℃のところでも、生活しますね。もっと寒いところで、スキーなどをしますね。このときに、ちようどいいからだの体温は、どうなるでしょう。

C からだの中も冷たくなっている。

C からだの中が上がっていく。

C からだの中の温度を上げて寒くないようにしている。

T 何℃まで?

C 38℃まで。

子どもたちの発表はどれも正解なのであろう。からだは冷たい外気によって体温が奪われるために、それを防ごうと熱を産生して体温を36℃台に維持しようとする。その振り子が微妙に振れていることは、たぶんまちがいない。

さらに、寒さに対して私たちが取る行動について考えた。

T 寒い日、みんなはどういう服装になるでしょう。

CC 暖かい服を着る。ジャンパーを着る。寒くない服装にする。厚手の服を着る。セーターを着る。

T なぜ寒くないようにしたいの。

CC 冷えちゃうから。寒いとかせをひいてしまうから。寒いからあっためようと。冷えると腹が痛くなる。

T 冷えてお腹が痛くなったことある人は(7、8人手をあげる)人間のちようどいいからだの中の温度は36℃台だね。では、冷えてお腹が痛くなるときのからだの中の温度はどうなっているんだろう。

C 33℃くらい。

T そうすると、からだの中の温度が下がると、からだの調子が悪くなるということがわかるね。そうすると、寒くないように服を着たり、ストロープを付けたりして。

C 暖めようとする。

T 何Cまで暖めようとするのですか。

C ちょうどいい温度まで。

「ほくは、びっくりしたことが一つあります。それは、どうして体がさむくなるとふくをきて、体をあたためようとするのかです。それは、体の中のおんどがさがるとふくをきてあたたためて体の中のおんどをあげようとするからです。びっくりしました。」(E)

### 夏の暑い日、からだの中の温度は

#### どうなっているのだろうか

T では、逆に、周りがあたたかい時、からだはどうなるのだろうか。

CC あせがでた。顔が赤くなってきた。

T 冬は白くなっていたね。暑くなると赤くなるんだ。

C 夏はでた。

T からだの調子が悪くなったんだね。

CC 顔がもわーとしてきた。のどがかわいてきた。

C あせがいつはい出た。

T 周りが暑い時、からだの中の温度はどうなりやすいでしょうか。

C あがって、37度くらいまで上がる。

T からだの中の温度が上がってくると、からだはどうしようとするのでしょうか。

C あせをかく。

C 熱を下げる。

T 熱を下げようとするんだね。暑すぎる時は、あせの代わりを使う人がいますね。

CC 顔にみずをかける。氷を食べる。アイスを食べる。

水をがっぷり飲む。水枕を使う。うちわで扇ぐ。扇風機を使う。冷蔵庫に頭を入れる。

T そうすると、からだの温度が上がってくると、汗を出して体温をちょうどいいところにもどそうとする。からだに任せていられない人は、扇風機やうちわや氷や水をかぶったりして、からだを冷やそうとする。

### お風呂に入っている時、からだの中の

#### 温度はどうなっているのだろうか

T では、もっと熱いお風呂の中ではどうなるのだろうか。やっぱり、汗がでた。

C 出た。

T お風呂に入りすぎて、からだの調子がおかしくなった人は。

C 頭がふらふらになった。

C 鼻血が出た。

T お風呂に入りすぎていると、からだの中の温度が上がって行って、からだの調子がおかしくなるんだね。

### 4 体温とともに生きる

S は、3時間の授業を振り返って、次のような感想を書いていた。

「学校ではかった体温は36・7℃でした。36℃台の人が一番多かったです。22人いました。35℃から37℃が人間のちょうどいいからだの中の温度だそうです。私はぎもんに思ったことがあります。なぜ人間はあせをかくのだろうか、ということ。それが気になっていました。でも、今日の学習でそのわけがわかりました。夏の時など、暑い日は、体の中の温度が上がってしまうため、あせをかいて温度をちょうどいい温度に下げるそうです。あともう一つぎもんに思っていることがあります。なぜ、寒いとからだがふるえるのか、ということ。この体温の学習でやらないかなあと思っています。そして、この体温の学習でぎもんに思っ

ていたことを知りました。人間は動いたりして筋肉を使うと、からだは熱くなるから、ふるえて動いてあたためているそうです。私は、この体温の学習をして、いつも「へえ、そうなんだ」と思います。私は、もっと体温のことを知りたいなあと思いました。」(S)

子どもにとつてこの学習は、これまでの体温に対する見方考え方がひっくり返されたり、知らなかった体温の事実をさぐりあてたりして、驚きの連続だったようである。なかには、いままで疑問に思い続けていた体温に関する不思議が解けて、からだの仕組みのすばらしさに興味を深めている子もいた。

(仙台・桜ヶ丘小)

(注「教育文化」455号・456号からの転載です。仙台市大沢小での3年生との授業の報告)

# 俺は変わりたい！

## 1、クラスの雰囲気

元気のある子が多いが、あちこちでアイコンタクトが見られたり、机を離したりする気配を感じる。「めんどくせー」「うざっー」というチクチクした言葉が飛び交うことが気になった。

けんかが起きた。話を聞くがここまで激しくなる理由がわからない。成り行きを聞くが教室は何事もないかのような無関心。当事者だけの問題ではなく、全体での共有の必要性を感じ、トラブルの流れを黒板に書き再現。

「冷静に考えれば、けんかになるほどのことじゃない。どっちも悪いと思う。」

背景を読み解くには不十分だが、このけんかには原因があったこと、このトラブルから学べることを確認した。

「リュウに嫌なことを言われる」と女の子から訴えがあった。

自分は悪くないとリュウは主張する。これは男子によく見られる傾向である。

## 佐々木 大介

「俺って自分の嫌なことと言われると怒るけど、人には嫌なこと言っちゃ傾向があつて。」

素直に自分を振り返るリュウの姿があつた。

## 2、女子が変わっていく男子は・・・

班長を中心にクラスの課題に取り組んできたことがきっかけで女子のリーダーが表に出てくる。この子たちを中心に女子は安定したつながりが増え、新しい友達とのつながりができていく。一方、男子の表情は険しい。遊びで自分が勝つようどんなルールが変わっていく。楽しくないから遊ばない方がいいという声が大きくなる。

「ズルしても勝ちたい！ どんなことをしても勝ちたい！」

リュウは険しい表情でこたえていた。そんな中、リュウは班長に立候補。「楽しい班」がテーマだったことで見事当選。「楽しいクラスがいい」と話すようになった。同時にこの頃から、家庭の事や友達とのトラブルの相談がある。素直に自分を話す時はやさしい穏やかな表情を見せる。これが本当

のリュウなのかもしれない。気持ちが安定することが増え、感情的に暴れることは見られなくなった。

## 3、「」の席替えは「ずるい」

「あいつらばかり、隣に並ぶように席替えしてる。」

提案した班長に抗議、さっそく班長会に説明を求めた。

「あまり遊ばない子を同じにしたら、そうなた！」

と説明する。みんな異論はなかったようだが、リュウは納得しない。指摘された点には領くところもあり、班長会が、

「もう1回考えさせてください。」

とクラスに再度提案した。クラス全体を分析する力不足と班長自らの特権を利用しようとしたことがリュウの一見わがままな意見によって明らかになった。その後、班長会は、非常に厳しく自分たちを見つめ、まわりから指摘を受けないような提案をするようになる。

## 4、「俺は一人のそうじがいい」

使ったぞうきを汚れたまま投げ捨てたり、ゴミの分別も関係なく捨てたりしていた。リュウにとつてはそれが当たり前で、面倒くさいことをするのは損だという。

「班ではやめます。自分のやりたい所を選んで下

さい。」

「俺は一人のそうじがいい！ やっててもやってないって言われちゃうから。」（実際やってないのだが……）

この方法はリュウだけでなく、他のどの子にもはまり、6年生になって3回連続この方法で分担場所を決めた。

## 5、「班長はいらない」

これまでの班替えは、まずテーマを決め、班長を選び、班長が席を提案したが、提案は次のようなものであった。

「もうこのクラスは2年のつきあいだから、誰となくても大丈夫。今回は席指定なしのオールくじで！」

班長なしという班替えはしたことがない。今のクラスの雰囲気考えると班長なしでもいけるかもしれない。この時点で私には、なぜこのような『班長なし制』の意見が出てきたのかをわかっていなかった。あまりにも自信たっぷりの核となる子どもたちを見て、やってみようと思った。5年の最初にとつきみあいの大げんかをしたリュウだが、トラブルは見られない。成長を感じる。

## 6、「俺は変わりたい！」

十一月二日の日直作文

僕はひねくれ者です。なんか言われてもすぐ忘

れて、注意されたことも気付かず、失敗しちゃいます。正直、自分がいやになります。でも、みんながフォローしてくれるので助かります。班のみんなには感謝してます。でも、やっぱり今日もそうでした。空気をこわすつぶやきは言うなどは言われても、なぜか無意識のうちに言っちゃいます。これからは、ちよつとずつ自分を変えたい。

それに対して、こんなコメントがあった。

「リュウはだめだつて言うけど、がんばろうとしているところもあるから、そんなふうには思わなくていいと思う。」

毎朝日直作文に一言あるがフォローしてくれるようなコメントはうれしい。リュウの表情もおだやかになっている。

「自分のことを振り返られるようになったのは成長ですよ。もう去年の君とは違います。」

「思う。俺は変わりたい！ 自分のためなことか、やなところをなくしたい！」

## 7、「班替えをしたい！」

総括では、今までにないきびしいやりとりがあった。

「やはりオールくじじゃない方がいい。」

『班長なし制』を否定する意見が続けて出てきたが、

「班長は上から目線になるし、友達のリランク付けみたいなので、班長はない方がいい。この子では

きないからこっちの班についていうのは、やっぱり嫌な感じがする。」

これまで『班長立候補制↓投票↓班長が席を提案』としていたが、班長は6人。その半分はいつも同じ。分析できていなかったが、「班長をやりたくてもなれない」、それが「班長なし制」を支持する一番の理由だったことに気付いた。私の班長像が問われていると感じた。

「信頼できる人を決めても結局班長と同じ人がなる。上下関係を作るっていうかレベルがわかっちゃうみたい。やっぱり自分はためなんだつて思っちゃう。」

思いを伝えることが女子の表情をやわらかくしていた。

## 8、「みんな俺から離れていく」

「リュウ、どうした？」

と声をかけると、号泣しながらしがみついてくる。落ち着くと、ゆっくりと話し始めた。

「俺には友達がいらない。みんな俺から離れていく。リュウは変わったなあと言われ、今いっぱい友達がいるけど、いじける自分が嫌だ！ 陰で『あいつ嫌だ！』って言ってる。せつかく励ましてくれる友達ができたのに、ひねくれている自分が嫌だ！ 変えたい！ 変わりたい！」

これはチャンスだと思った。クラスはうまくいっているように見えるが、女子の間でも陰での悪口や表裏の行動が目についていたのだ。全



員を黒板の前に集めた。

「リュウがみんなに伝えたいことがあるから、しっかりそれを受け止めて応えてほしい。」

リュウは、泣きながらクラス全員に自分のことばで伝えた。

「私も4年生の時、いじめられていたことがあったけど、友達に相談したら楽になった。私でもよかったら相談していいんだよ。リュウは一人で抱え込みすぎるから。いろいろあるけど、みんなに心を開いていいと思う。そういうクラスだよ。」

「みんなリュウを友達として大好きだと思う。支えてくれる友達がいるんだから、最後は自分の頭で考えなきゃいけない！ そうしないとリュウは変わらない！」

涙ながらにリュウの思いに伝えようと、みんなが思いを伝えている。リュウは泣きながらもうなずき聞いている。

「俺が嫌なことを言ってる限り変わらない。俺がいる限り、悪口はなくなるならない。気がついたら、みんな俺から離れていくのかなあ。俺は一人になったのかなあって。」

「私も実は仲よしとみんなが思ってる子の悪口を言っていた。でも最近いいところを言うようにして、嫌なことは家の人形に言ってる。リュウもそうしてみるといいよ。」

一年前『またあいつかよ！』と言われていたリュウにみんなが本気で思いを伝えた。

「俺、自分がサイテーだと思って、勝手に壁つくっ

て心を閉ざしてた。みんな、ありがとう！」

リュウの心の叫びがクラスみんなの気持ちを揺り動かす、本音をひき出した瞬間だった。

### 9、表情が変わってきた！

「先生が俺にやさしくしてくれるのがみんなにうつって、みんながやさしくしてくれる。みんな変わったと思う。人って変わるんだね。」

目をつりあげ怒っていたリュウは穏やかに変わっていた。

### 10、班長はいないが、リーダーとして

『あと二十七日』。卒業までのカウントダウンが始まり、小学校最後の黄金期を迎えた。『班長なし制』が続いていたが、卒業式の実行委員や思い出スポーツ大会などいろいろな場面で班長になれなくてくやしい思いをしてきた子たちがリーダーとして活躍した。強引な所もあるが、以前班長だった子たちがフォロワーするので気持ちよく活動が進む。そうじも一人一役制から班分担制に変わった。

「中学校は楽しみだけど、ずっとこのクラスでいたい！」

そんな声を聞きながら毎日を過ごしている。そして、卒業式一週間前に、あの地震が……。

(仙台・八木山小)

\* 佐々木さんの報告は、11年度の教研レポートをこのために字数を半分以下に減らしてもらったものです。

パパとママ大丈夫かな

高橋 希海

宿題が終わって、ビデオを見ていました。すると、グラッとゆれました。おばあちゃんのケータイ電話が、ブーツブーツと鳴りました。この音はきんきゆう地しんそくほつ音なのです。なのでみんなあわてました。私は、もう地しんが来て身動きがとれなくなりました。

地しんがおさまったら、テレビを3チャンネルにしました。つなみけいほつが、宮城県に出ていました。一階が上がって、にげるじゅんびを思いました。私は、(ママとパパ、大丈夫かなあ)と思いました。

おばあちゃんが電話すると、やっぱり屋上にひなんしたそうです。なんで、お父さんも心配するかというところ、ちょうどその時にお母さんのおおかえだつたからです。

おばあちゃんが、電気があつちにと、夜ごはんを作ってきました。何度も、ほつさいおせんから、ほつ送が流れました。私は、食よくがなくては気がしました。こわくて、ジャンパーもぬげませんでした。私は、つなみけいほつがけいよとなるまで、寒気がしたり、食よくもぜんぜんわきません。

それで、テレビを見ると、つなみけいほつ、注意ほつがけいよされました。私は、(ゆだんしてちゃダメだね)と思いました。

(多賀城市山王小3年)

# 『ピリプ』の思い出

高橋 律子

「そんな声で、卒業式でうたえるはずないじゃないの。」

卒業式を1か月後に控えて、私は、あせっていた。卒業式で、『ピリプ』を歌うことになって、三学期に入ってから、毎日練習をしていた。四時間目の音楽の時間である。

「一人ずつ歌ってごらん。もうそれで限界なの。」  
私は、一人ずつ歌わせていた。勝男の順番にきた時、

「何で、こんなことやるんだよ。」

持っていた教科書を床に投げつけ、大声でどなり、泣きながら私をにらんだ。

「じゃ、いいよ。みんなにやる気がないなら、もうやめよう。卒業式の歌なんて歌わなければいい。」

私も感情を抑えきれず、怒鳴っていた。子どもたちの沈黙……。四時間目を早く打ち切り、給食にすることにした。その日は、食堂での給食だった。私は、子どもたちを食堂に向かわせ、一人で教室に残っていた。自分の感情を静めたいと思っていたから。すると、弘と光が、やってきた。少し、

落ちついた私は、

「ごめんね。みんなにいやな思いをさせてしまったね。卒業近いのに、先生だめだね。」

「先生が悪いんじゃないんだ。俺たちが声、本気で出してねんだ。何で、みんな、声出さねんだ。俺いっぱい出してるのに。」

いつも陽気で、クラスの笑いの中心の弘が、下を向いて言った。悔しさがこみ上げているようだった。

「先生、次の時間さ、みんなで話すつべ。なんで声出さんねのが。聞いてみつべ。」

私たちが教室で話していると、給食の用意ができたことを教えにきてくれた。さっき切れた勝男は、もうさっきの出来事は、なかつたかのように、友達と笑いながら給食を食べていた。

給食が済んで、子どもたちが教室に戻ってきた。机を取り払って、車座になり、話し合うことになった。

口火を切ったのは、弘だった。

「おれたちさ、一生懸命歌ってるのに、女子はど

うして声出さねんだ。」

「そうだ。女子はさ、あいさつしても、いつも答えねえよな。」

男子の間から、女子への不満が出された。

男子十八名、女子九名のクラス。一年生の時からやんちゃな男子と静かな女子で通ってきた。自分の思いを表現することがことのほか苦手な子どもたちだった。

不意に、道代が語り出した。

「私、ずっと男子が怖かった。何か話すと、みんなに言われる気がしていやだった。私が何か言うどへんな顔をしてる気がしてた。」

すると、亜紀が小さな声で、

「男子は、かずちゃんのことをいつも厭がって避けてたでしょ。かわいそうだった。でも、私がかずちゃんをかばったら、私もされる気がしてこわかった。」

それをじつと聞いていたかず子は、突然、泣きながら、

「みんな、どうして私をさけるの。わたしの机にさわらないようにしたり、私のことをとぼそうとしたり、そんなことたくさんあった。先生がいなるところで、私はたくさんさされていた。それが、悲しかった。」

かず子は、家庭的に恵まれず、衣服の洗濯も十分行きとどかない状況だった。

また、言われたことには一言二言答えるものの、

自分から話すことはほとんどないかず子が自分からしゃべったのだ。

私をはじめ子どもたちは驚いてかず子の話を聞いた。

「しゃくりあげながら、必死で話すかず子。彼女のこんな姿を見たのは、はじめてだったろう。かず子は、いままで男子にされてきたいじめについて泣きながら話した。どんな思いで、それを我慢してきたか話した。

聞いていて私は、いったい何をしてきたのだろうと思った。夏休みの「友情合宿」もした。体育祭では、どの子も満足する成績もとった。学習発表会でもみんなで協力して難しい劇にも挑んだ。少しづつみんな団結していくのを感じてきていたのに、こんなに悲しい思いをしていた子がいたなんて。

情けなさとかず子への申し訳なさで、私は言葉も出なかつた。どの子も真剣にかず子の顔を見ながら聞いていた。泣いている子もたくさんいた。かず子の話がひとしきり終わると、次々に子どもたちが語り出した。

「俺だって、三年生の時、デブって言われてから、何かにつけて言われてた。気にしないように振る舞っていたけど、本当は、すごくいやだった。」

「○○ちゃんは、僕のこと、悪口言ってたよね。頭にきてたんだ。」

低学年時代の話から今までのことが、一人ひとりの口から本音で語られた。そんな中、政美は、

「私は、五年生の時お父さんとお母さんが離婚することになって、ほんとに悲しかった。だから、なんだかいつもむしゃくしゃして、○○ちゃんにひどいことを言ってしまった。ごめんね。」

「私も、まさちゃんの気持ちわかるよ。だって、私もそうだったもの。私も同じ思いしていたもの。」  
学校の中で子どもたちの言動から家での出来事、自分の中にたまっていたいやなわだかまりを堰を切ったように話す子どもたち。私はただただ、聞いてやることしかできなかった。

気がついて時計を見ると、もう四時近くになるうとしていた。一時から延々三時間近くこの子たちに人の話に聞き入るこんな力があつたとは、思ってもよらなかつた。それだけ一人ひとりの話す言葉の重さを感じていたのだろう。もう、これで終わろうとしたとき、祐介が、

「俺たちが、悪かつたんだなあ。かずちゃんごめんね。俺もかずちゃんのことさわからないようにしたことあつた。ごめんね。男子みんな、立て。みんなであやまつべ。早く立て。」

と言うのだ。男子全員が立って、かず子にみんなで頭を下げた。さらに、祐介が、

「みんなで握手しよう。」  
という。みんな少しとまどっていたけれども従った。

全員握手し出した。どうして握手なのか、祐介は、その時、かず子の手を握ることがしつかりできないければ、かず子に謝罪したことにはならないと考

えたのではないかと私は思った。

照れくさくてとまどっている子に対して、祐介は、しつかり握れと声をかけていた。

こうして全員と握手したことは、たぶんかず子にとつて初めての経験だったことだろう。その後、みんな『ピリブ』をもう一度歌おうという提案があり、みんな歌って帰った。もう、薄暗くなっていた。

二月十四日。卒業一ヶ月前の出来事。

私には、忘れられない思い出になった。『ピリブ』の歌とともに……。

#### 卒業式。

別れの言葉の中で、かず子は泣きながら、堂々とスピーチした。

「私は、いままで人の前で話すことがとても苦手でした。(中略)今、広報委員長としてみんなの前で話すことができ、成長できました。」と。

一ヶ月でも、みんなと意思を通わせて果立つことができたことを喜びつつも、一ヶ月しか本当の思いを分かち合えず小学校生活を終えるかず子へ本当に申し訳ない思いでいっぱいだった。

(白石・齋川小)

\* 白石第一小でのことで、「カマロード」41号からの転載です。

- ⑥ もしも半月（下弦）が南に見えたら、太陽はどの方角にありますか？  
太陽は東から昇ってくる
- ⑦ それはどうしてですか？  
月は太陽の光を反射しているので、月の光っている方向に太陽があるから
- ⑧ 月は日によって、形も位置も変わるのなぜですか？  
1日で太陽と月の位置が変化するので、月の形が変わって見えるから

2012年の9月30日（旧暦の8月15日）は『中秋の名月』です。『十五夜』とも言っています。また、『芋名月』とも言います。

そして、十五夜の次は『十六夜（いぎよい）』、次の日の月を『立待月』、その次を『居待月』、その次を『寝待月』、その次を『更待月』、それから『有明月』と言います。風流だね。最後に、次の13日目の月（旧暦9月13日、2012年の場合は10月27日）を『十三夜』と言ったり『栗名月』と言ったりして、お月さんを楽しんでいたんだね。

### 3 考察

この授業の間に、月を見ていた児童が9割以上のA学級ではテストのクラス平均点が85点、月を見ていた児童が7～8割のB学級ではテストの平均点が80点だった。特に問題は見られなかったが、月を見れば成績が向上すると考えてよさそうである。

A学級におけるレディネステストの結果との関連性をみると、月の形や動きについて、ほぼ理解できていると思われる児童はたった1人であったが、もちろんしっかりとまとめることができていた。また、レディネステストで、月の形についてほぼ理解できていた9人の児童も、月の動きなどについての理解を深め、しっかりとまとめることができていた。さらに、6人の児童が理解を高めることができた。

このことから、やはり月を実際に見ているかどうかで、理解度が上がっているように感じられる。そして、授業の初めに撮影した月の拡大画像を見せることも、観察への意欲づけには有効だったようである。

### 4 おわりに

本校に転勤して、運動会のためのクリーン作戦で、校庭からまず石器が発見されたことで驚かされた。

そして、子どもたちは校庭から石器を探そうとして、次々とサメの歯の化石が発見した。サメの背骨の化石も見つかった。初めのうちは、校庭にまかれた砂に含まれていたのではないかと思っていたが、あまりにも多くのサメの歯の化石が見つかる。また、25年前の校舎建築の際に、貝化石が出土していることから、校庭からサメの歯の化石が出土していると考えた方がいいと思うようになった。これらは、写真撮影し、理科室の入口に展示している。6年生から始まったサメの歯の化石探しは、全学年に広がってきた。

2012年は天文的にも、いろいろな現象が見られた。特に、5月21日（月）の金環日食（本校の位置では部分日食）は、生涯忘れられない出来事となった。19日（土）が運動会だったので、21日は振替休業日となり、関東地方へ観察一人旅に出た。青空を求めて移動し、写真撮影に成功した。子どもたちには土産話もした。

秋になって、6年生に化石の話を1時間だけの限定で行ったが、校庭のサメの歯からサメの大きさを推定し、カルカロドン・メガロドンの体長を推定した。実物の化石を見せることで、それにまつわる話をすると、興味をもってくれたことがよく分かった。

これからも、飛び入り参加で理科の授業の楽しさを追求し、子どもたちに伝えていきたいと思う。

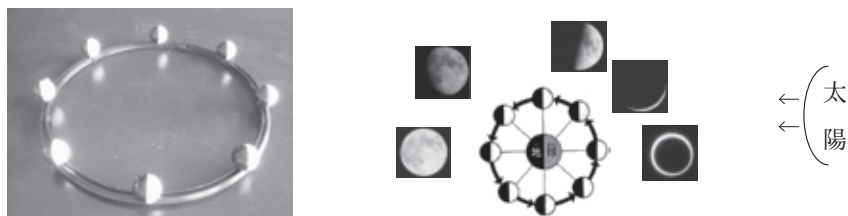
（黒川・あけの平小・黒川理科研究会）

※ 第62次全国教研・理科分科会提出レポートです。転載にあたり縮めていただきました。



#### (4) 第4次・月の形と太陽の位置

図だけでは、分かりにくいので、こんな模型を作ってきました。



一人一人がこの模型をかぶって、新月・三日月・半月（上弦）・十日月・満月・二十日月・半月（下弦）・暁月を確認する。その合間に、上の図をノートにかかせる（⑥⑦⑧については2通りのかきかたがあるのでかかせることはしない）。

- ・太陽と地球と月が、 $180^\circ$ のとき、満月（望月，十五夜）。
- ・太陽と地球と月が、 $90^\circ$ のとき、半月（上弦）。
- ・太陽と地球と月が、 $0^\circ$ のとき、新月（ときどき日食が起こる）。

を確認する。

そして、太陽と $180^\circ$ の関係から、太陽が西にある時、 $180^\circ$ の角度が東になることを確認し、どんな形の月になるのかを聞く。

- ① 夕方、東の方角に見える月はどんな形ですか？

それからどちらに動きますか？（太陽と $180^\circ$ ）

満月・斜め右上に向かう↗

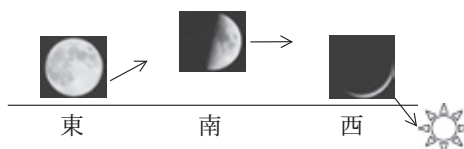
- ② 夕方、南の方角に見える月はどんな形ですか？

それからどちらに動きますか？（太陽と $90^\circ$ ）

半月（上弦）・地平線に平行に向かう→

- ③ 夕方、西の方角に見える月はどんな形ですか？ それからどちらに動きますか？

三日月・斜め右下に向かう（沈む）↘



#### (5) 第5次・まとめ

- ① 朝方の満月は、どの方角に見えますか？

それからどちらに動きますか？

西・斜め右下に向かう↘（沈む）

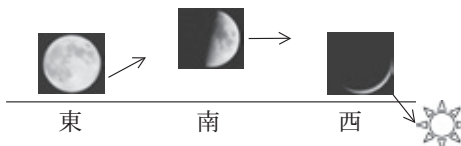
- ② 朝方の半月（下弦）は、どの方角に見えますか？それからどちらに動きますか？

南・地平線に平行に向かう→

- ③ 朝方の暁月は、どの方角に見えますか？ それからどちらに動きますか？

東・斜め右上に向かう↗

太陽を中心とした時の月の形の学習の後、月が出ていたら、太陽がどちらにあるのかを予想することにした。



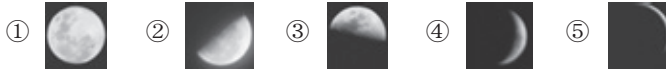
- ④ もしも三日月が見えたら、太陽はどの方角にありますか？

太陽は西に沈んだ

- ⑤ もしも満月が西に見えたら、太陽はどの方角にありますか？

太陽は東から昇ってくる

(2) 第2次・月の形 (5種類の拡大画像)



- 問1) 満月はどれ? ①満月…正答率100%
- 問2) 三日月はどれ? ⑤三日月
- 問3) よく見る半月はどれ? ③半月(上弦)…上弦, 下弦の意味が
- 問4) 月を順番に並べてみよう ⑤→③→①→②→④

⑤から始まるとすると, ③①②④となるのだが, 見ていないのだから並べるのはほとんど無理。何人かが、「だんだん太って行って満月になると, 痩せていく」というようなことは言っていた。とにかく, 月を見て確かめることを話す。

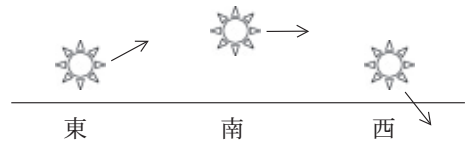
実際には, Aクラスでは9割の児童が月を見ていた。

(3) 第3次・太陽の動きと月の動き

- ① 太陽はどちらから昇って, どちらに沈みますか?

東から昇って, 南を通り, 西に沈む

※ ごくありふれたことなので, 3学年で学習していたことだが, 忘れてしまっている児童も多い。復習して確認することも必要である。

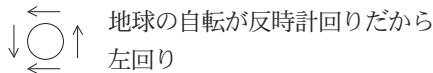


- ② 南天の星はどちらから昇って, どちらに沈みますか?

東から昇って, 南を通り, 西に沈む

※ これは4学年で学習してきたことだが, 観察した記憶があまりないようで, 太陽が東から昇るのであれば, 星は西からなどと答えてしまう児童もいるくらいだ。地球が自転していることと結びつけて考えさせたい。

- ③ 東から昇って, 南を通って, 西に沈むのはどうしてですか?



- ④ 月はどちらから昇って, どちらに沈みますか?

東から昇って, 南を通り, 西に沈む

- ⑤ それはどうしてですか? 地球の自転が反時計回り(左回り)だから

※ 見かけの太陽や月, 星の動きは, 地球の自転によって, 東から南を通って西へと動くことを, 地球儀などを使って確認する。

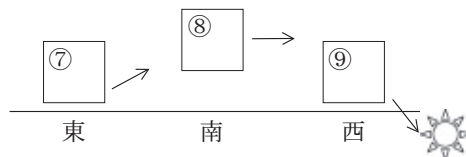
- ⑥ ところで, 「菜の花や月は東に日は西に(与謝蕪村)」という俳句があります。この時の月はどんな形の月でしょうか?



※ この日は, ⑥~⑨の問題には回答せずに, 次の時間までの課題とした。

つまり, 夕方に見える月の形は, 方角によって決まっています。

- ⑦ 夕方, 東の方角に見える月はどんな形ですか? それからどちらに動きますか?
- ⑧ 夕方, 南の方角に見える月はどんな形ですか? それからどちらに動きますか?
- ⑨ 夕方, 西の方角に見える月はどんな形ですか? それからどちらに動きますか?



して、月に対する関心を高めることができれば、月を見るようになるのではないかと考えた。

## 2 「太陽と月の形（小6）」の実践・・・5時間

### (1) 第1次・太陽と月のちがい

#### ① 月の裏（の写真・拡大画像）

- ・ この写真は、全地球人のうち30人くらいしか、見ていないものです。さて、何だと思いませんか？



C 月？

C クレーター！（天体ということは認識している）

C 月の裏側。（よく知っているなあ）

- ・ 答えは、『月の裏側』です。地球からは絶対に見えません。それはどうして？

C 地球に同じ側を見せているから

- ・ よく知っているね。では、月の裏側を見た人は30人くらいいます。その人たちとはどんな人でしょうか？

C 宇宙飛行士。アメリカ人。

#### ② 月の表と月の裏のちがい（地球から見ての表裏ですが）

- ・ これは『月の表』です。『月の裏』とちがいますね。何がちがいますか？

#### ● 月の表側

「暗い部分が多い」

「全体的に明るい」

『海』はほとんどない。

- ◆ 暗い部分を『海』とは言いが、月には水や空気のないことを確認する。

#### ● 月の表側

「クレーターが少ない」

◆ 月の表側には平らな部分が多いということ。月の裏側には凸凹（山）が多いということ。

#### ● 月の表側

プロセルラム盆地

静の海・晴れの海・雨の海……

クレーター（科学者の名前が多い）

コペルニクス、ティコ、ケプラー、ニュートン、……

#### ○ 月の裏側

「暗い部分がほとんどない」

『海』と言われる部分が多い。

#### ○ 月の裏側

「クレーターが多い」

#### ○ 月の裏側

ガガーリンクレーター（宇宙飛行士）

#### ③ 太陽と月のちがい

##### ・ 太陽

- (1) 球体（液体）
- (2) 大きい（地球の109倍）
- (3) 遠い（地球との距離150000000km）
- (4) 黒点がある
- (5) 自分で輝いている（核融合）

○ 恒星 アンタレス・ベガ・デネブ・  
アルタイル・シリウス・プロキオン・  
ベテルギウス

- (6) 熱い（6000℃）
- (7) プロミネンス・コロナがある

##### ・ 月

- (1) 球体（岩石）
- (2) とても小さい（地球の1/4）
- (3) 近い（地球との距離380000km）
- (4) クレーターがある
- (5) 反射して光っている

● 惑星や衛星 惑星；水金地火木土天海  
衛星；0 0 1 2 16 18 5 2

- (6) +150℃～-120℃

# 自然を好きにするために

## —「太陽と月の形（小6）」の実践—

伊藤 裕 一

### 1 はじめに

理科離れと言われて久しいが、子どもたちは自然が好きである。自然と対話しようとしている。ただ、その方法が分らずに戸惑っているだけである。また、教師自身もまたその方法に困惑して、その楽しみ方を伝えられずにいるのではないだろうか。

そして、天体の学習では、学校から離れて、教師から離れての観察となり、さらに困難さを増している。

そのために、最低限『まずは月を見てほしい』という目標を立てて、指導に当たることにした。6学年30名の2クラスで、実践させてもらうことになったので、反省しながらの指導を行うことができた。

#### (1) 主題設定の理由

レディネステスト「月の形アンケート」の結果から、次のような理由をあげる。

(第1問) 半月（上弦の月）の1週間後の月はどんな形の月ですか？ ……正答率 30%

正答 ① 満月

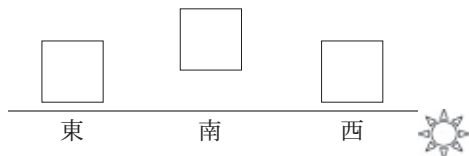
(第1問) この半月  を見てから、1週間後の月の形は、どんな形でしょうか？ 番号で答えましょう。

①  ②  ③  ④  ⑤ 

(第2問) 夕方6時過ぎに見える月の形を口の中（東・南・西）にかきましよう。また、動いて行く方向に矢印をかきましよう。

西…三日月 15% 南…半月 5% 東…満月 30% 逆走 20%

(第2問) 夕方6時ころに見える月の形を口の中にかいて、動いて行く方向に矢印をかきましよう。



第4学年で、月の観察の学習をしてきたが、レディネステストからはその成果は読み取れなかった。

また、月の形は全問正解なのに、月の動きが逆走しているようなかきかたをした児童がいた。これは、夕方に見えた月だけを考え西から東に動いているように感じたのかもしれない。

結局のところ、実際の月をよく見ていないと結論される。そこで、断続的に長期的に観察、いや一度だけでも見ればよいと考え、月を見させるための授業のあり方を探ることにした。

#### (2) 仮説

『前日の月の画像を見せること』や『太陽と地球と月の角度と月の形』、『月の古来の呼び名』などを活用



# 衝撃を与えた広瀬小学校綴方研究会

中川 正人

## 〔1〕『工作・国語教育』

昭和9年度、従来、工作・国語教育ノ同人数名ナリシヲ全職員ヲ以テ同人トナスコトニ組織替ヲナシ、雑誌『工作・国語教育』ヲ毎月発刊ノコトニ協議ス、同人ノ研究実践益旺ンナリ、且毎号各方面ノ国語人ノ実践的玉稿ヲ寄セラルルアリ、児童ノ成績ノ向上ヲ見タリ

〔『広瀬小学校沿革誌』〕

学校長以下17名の全職員を同人とした研究誌『工作・国語教育』の発行について、菅野門之助はつぎのように述べている。

理由は頗る簡単である。前の校長（注・宮本聯治）と一晚談した時に、駄目だよ、いくら力んで見たって質が揃ってないじゃないか。と彼氏は言ふのだ。だつて質のいいのを揃へてから研究に進めるのはおかしいではないか、悪質のものを良質へみがきかけるのが現在の仕事じゃございませ

せんか。とそんな話から僕は何といふことなしに「山間部小学校」の立ち遅れを鞭撻する心から原紙きりをしてしまった。問題はごく小さく広瀬小学校の実践を高めるためといふ目的からで、それが工作国語教育の立場の全てであった。

〔『工程』1935・11「吾等の立場」〕

「教員室が和やかでなくて、どうして温い教室ができるか」と佐々木昂はあまたたび、広瀬の教員室を懐しがつて行った（鈴木道太『工作・国語教育10』）といわれた広瀬小学校では、教師以外の職員（使丁）をも含めた形で、職場での人間解放がなされていた感がある。

このような職場集団づくりは、つぎのような菅野門之助の考え方に裏付けられていた。

私達は校長の従属物ではありませんし、学校がギルドでない限り、校長は私達の親分でもありません。私は学校を一つの協同体と見たいのであります。私達の協議を校長が統率する。校長は一つ



の団体の、ひところ流行りました言葉で言へば、オルグであつて貰ひたいのです。私達は、私達の仕事を遂行し、私達の学校を経営し、相互の協議と反省によつて、よい学校社会が生活出来ることを望みたいのです。私は、校長のために仕事をしてゐるのではなく、まして県の御役人のために仕事をしてゐるのではなく、まして私の仕事の対象は子供であるべきだと考へます。私達には子供に尽してやつてると云ふ満足感や、子供をギマンしないと云ふ良心や、子供に済まないと思ふ反省が好ましいものと思ひます。校長に圧迫感を感じ、又校長が圧

迫る態度に出て来る時には、吾々の集团的営みに何らかの無理がある時である、私達の仕事が本来の目的に沿って行はれない時であります。

『工作・国語教育12』『校長と生活信仰』

自覚的教師が、自分の領分においてだけいい教育をしようとするのでなく、教職員全体がどんな教育を志向するか、全員の意思でそれをきめていくような方向を追求すべきであること、そして、民主的な教職員集団を形成することは、その中で自己を変革し、思想し、教職員としての意識主体を確立すること——「自己を変革することによって、相手を変えていく」という実践の思想がそこにあった。学校における教職員の集団としての形成は、教育そのものの本質から要求されることを、彼は明確におさえていたのである。

このような職場集団づくりの中から、「山の学校広瀬小学校は、綴方学校として近來とみに名が挙げた。長いこと、都市的綴方の支配下に屈服してゐた農村山村の所謂3行綴方をして、遂に光輝ある村落綴方の勝利」にまで発展させた大半の功績は広瀬の学校にある」（横澤文質『宮城教育』1935・1「広瀬綴方研究会を語る」と評価された、すぐれた教育実践が生みだされたのである。教師集団による厳しい批判とあたたかなはげましに支えられた実践の中から、多くの「文集」が発行され、すぐれた実践報告が『国語教育研究』に発表された（寄稿者としては、菅野門之助、伊

藤啓一 学校長、石森綾子、及川武、澤畑正一、寺田八ツ、庄子とくゑの7名を数えることができる）。「文集」として、現在確認できるものはつぎのとおりである。

『河鹿』（学校文集）、『勉強兵隊』『機関車』『草刈場』（菅野門之助）、『山の村』（澤畑正一）、『あゆみ』『綴方開墾地』（久保升平）、『トンネル』（寺田八ツ）、『ろり火』（石森綾子）、『山』（庄子とくゑ）、『綴方村』（菅原雄雄）、『ゴム靴兵隊』（岩井道子）、『長い道』（及川武）、『文集』（加藤つや）、『文集』（西澤仁）。

## （2）広瀬小学校綴方研究会

11月4日二、北日本綴方研究大会ヲ開催セリ。会集70余ナリシガ、何レモ真率ナル研究者ノミナリキ。山形 国分一太郎氏 福島 木下竜二氏 秋田 加藤周四郎氏 佐々木昂氏  
当日来会不能ナリシ岩手ノ及川公夫氏ハ12月4日來校參觀セリ。 （『広瀬小学校沿革誌』）

そして11月はじめに、菅野君の広瀬小学校で『工作・国語教育』主催の研究会を開くから、そのときに秋田からも岩手・福島からも来てもらって話しあおうということになった。この時だと思つたわたしは、村山俊太郎氏とも相談し、さっそく秋田と連絡をして佐々木昂・加藤周四郎の二人が来ることになった。昭和9年、それは東北大凶作の年であつた。刈り残された白い稲穂がつめたい秋風にそよぐなかで、わたしたちの研究会はひらか

れた。福島の木下竜二をあわせて、県外から来たものは四人であつた。研究会のあと、わたしたちは、北日本国語教育連盟をつくることを申しあわせた。わたしたちは、この連盟を、東北における教育文化運動の中核にしようとした。

（国分一太郎『生活綴方ノート』）

広瀬小学校綴方研究会が、いわゆる「北日本国語教育連盟結成準備会」の会合の機会を提供したのとらえ方が、従来からなされてきた。すなわち、「石森門之助の広瀬小学校の国語教育の研究を名目にして呼んだのであり」（鈴木道太『宮城県生活綴方運動史』）、研究会後、「この夜仙台市東一番丁の紅屋ホール2階に集つた30人の若い北方の現場教員たちは、改めて各県の情勢報告と機関誌活動の連帯を表明し」（加藤周四郎『わが北方教育の道』）、「北日本国語教育連盟」の結成準備会をもつたというとらえ方である。

広瀬小学校綴方研究会の実体はどうであつたのか。この研究会の記録である『国語教育研究』（1935・1）に掲載された谷村十郎（鈴木道太）の『広瀬綴方研究会記』で検討してみる。

広瀬小学校綴方研究会は、公開授業と研究発表の二本柱で構成されていた。広瀬小学校の公開授業は、2年の記述（及川武）、3年の書き直し（庄子とくゑ）、5年の文話（菅野門之助）、高1の詩（澤畑正一）で、鈴木道太は、つぎのように記している。

## 密度ある実践

授業の底深く理論が光つてゐた。彼等の実践は生活の中で、生活の目を開いてやるために為されてゐることだ。(注・具体的な授業への感想の記録は省略)

以上、記述、書き直し、文話、詩話の四つの授業に共通するものは、理論が授業の底深く光つてゐることであり、もう一つは、単に綴方の技術指導のみでなしに、子供の生活を問題とし、生活観培育の努力を見せてゐることである。これが広瀬綴方の美点である。殊に後者を深めるがよい。指導者の文を観る目も適確であるし、子供も鋭く文を見る。綴方の道は、一夜作りでは出来ない。じっくりと実践に耐へて耐へて行かねばならぬ。(中略)我々は実践に臨む態度を彼等から学び取った。綴方の表現技術の修練を主体にしてゐたわれわれの綴方教育は今新しい夜明けを見た。生活を耕せよ。朝の鐘はさう告げてゐる。

研究発表は、つぎの7名、宮城県の生活綴方教育実践者の総力をあげた形での取り組みであった。記述のメモ (氏家芳治、のちに菅野、文集『綴方耕土』の指導者)、書き直し指導再論 (鎌田冬二、本名孝)、綴方題材考 (佐々木正)、文話のあり方 (菅野門之助)、低学年童詩指導の実践報告 (佐藤みさえ)、生活詩への意図 (澤畑正一)、文集制作論考 (五十嵐勝治、文集『陽丘』の指導者)。

研究会の記録は、つぎの文を結びとしている。

### 当時の廣瀬小案内のための付記

#### 廣瀬綴方学校參觀記

丘 幾之助

1、山の村  
仙台から、仙山鉄道で三里。廣瀬は山の村である。汽車は白い煙を残して、若草の原っぱの中に乗客をおろすと。楢や落葉松の若い林のなかを、のろのろと走って、高原の霧に吸われてしまふ。

2、林と旗と風  
校庭は千五百米のトラック、遠い地平線に落葉松の林がづらなつて、国旗掲揚の子供は駆足で三分もかかるのです。

——菅野君の声はいいなアと横澤さんが感歎する。音頭を取った君ヶ代が高原の峰の風に飛ばされて、それから、見よ、遥か八百米の前方に、ハタハタと国旗が上るのです。旗が林の上までのぼると、野原の風があたりたります。しんとするひととき、ああ、林のなかから、さまざまな小鳥の声が、いちどきに流れてくる。落葉のにおいが走ってくる。風が吹いて霧がだんだんはれてくるのです。

3、子供  
子供は、洋服の上に着物など着ているのです。バサバサの髪を水で

結んで、ときたまランドセルなど背負ってくるのもあるが、——あの子は多分、仙台の伯父さんから買って貰ったんだろ、そしてそれを、綴方に書いたんだろ、そんな顔をしてゐる——と佐々木君がいうんです。

綴方の紙をカサカサさせると、熱心に見ている。鉛筆をしゃぶつてはなをたらして、窓の外ばかり見ているのがある。——あの子は多分、菅野君が文集に名前ばかり書いてくれた子に違いない、のらくろイデオロギーの所有者に違いない、と僕は思う。

「ここから「山の村」や「機関車」や「河鹿」やその他六種の学級文集が生産され、全国の綴方市場に配給されたのであるが、教室はまことに無邪気で、素焼の壺に、野原の雑草が露のままに投げ込まれているのです。」

4、先生  
先生は、伊藤校長は野趣に富む詩人、豪放な叙述面の下に、デリカな原現象としての象徴的機構が、蕃山の詩情を捉えるのです。

首席阿部氏は表現的機構、アドルフマンジューよりもっと優しいヒゲが、微笑むのです。

及川氏は角力協会の幹事のようなカッコウをして「草の葉にとまっていた可愛い蝶々」と、純情的な眼をするし、庄子さんは「制服の淑女」、岩井の母さんはこぼれるような笑顔

で「一太郎やあい」、菅原氏は温厚な紳士、そしてヨタモン小夜曲のスマートな顔役は西澤先生。

それからが大へんである。叙述の航路を進めればこれなん、「読解の航路」の澤口氏はナザレの聖者のように敬虔であり、往年深沼で兵隊遊びの指揮者だったという豊田氏はこわいみたいに謹厳であり、上愛子のウルサ方を一まとめにすれば、石森女史は純情可憐の徒、寺田女史は野のスマイレ——キザでかなわんです——高橋かつよ女史には一飯の恩義ありてさらさら非難はいたさねど、高原の草の上に立つたは、勇猛果敢なジャンネタルクの面影あるのです。局のつや先生は温かく、さて最後にセンチメンタルの石炭を燃やして走る「機関車」の、火夫と成り上つたる菅野門之助君に、明けても喜んでも児童詩と、詩を耕しちゃあ「山の村に、うんこひつても詩と化かす、澤畑正一君が居るんである。」

おしなべてこの学校の先生は、一張羅の洋服を騰写版のインクににじませて、林の中を駆けずりまわつて来てはその泥靴をどうするのか、廊下も教室もピカピカと、実に風雅な清潔法を心得ているのである。

だから、村が、學校が、教室が、それから便所が——僕はおしっこをしながら閑古鳥を聞いたのです——そのまま詩になつてゐるのである。



## 新しき世代への夜明け

われわれが広瀬の研究会の授業と発表から、強い感動をもつて教へられたものは、綴方を生活構築の道に立たせやうとする熱意である。われわれとは宮城綴方が技術的偏向をなしてゐる事を痛感し、広瀬の研究誌工作国語教育も「綴方教育に必須なるもの」を特輯して警告を与えてゐる。今や我々は新しい夜明けを知る。

広瀬小学校綴方研究会の参加者たちは、目の前で授業という具体的な形で示された教育実践や実践に裏付けられた理論の発表から、自分たちのこれから進むべき道を見出し、それにとりくむ自信をもつたに違いない。とくに、『工作・国語教育』同人として結集した広瀬小学校の教師による集団的な教育実践は、「ばらばらな天才主義をすてて、堅実な綴方教育のレベルを统一的に昂揚することこそ、重要な任務」（村山俊太郎『綴方生活』1935・2）であること、「有力・有能な少数の英雄時代から、普通の・平凡な・しかし創意性と創造性にあふれた無数の英雄たちの集団の時代へ」（民族歌舞団わらび座、茶谷十六）の新しい歩みとして、うけとめられたと考えられる。

【北方の児童文集宮城編】（東北電力会社発行 白い国の詩編）解説「宮城県における生活綴り方教育運動」（中川正人）より、著者の許可を得て、第3章をそのまま転載する。】

## 5、国語教育設計図

だが、廣瀬の強味は、その実践の密度にある。

確かな文筆力を持つ上に、実践で鍛えた強力な理論がある。その上におびただしい書籍を消化しているのである。

今の宮城縣で、厚生園でもいい東苑書房でもいい、とにかく国語教育に関する書籍を、もつとも大量に消化する学校は、仙南では村田、仙北では廣瀬である。

だからその読方綴方の授業を見ると、あらわれている指導実践の裏に、山のような理論がかくされているのである。そうでなくてはあんなに行き届いた、深みのある感情が出てこないのである。

校長伊藤氏は、恐らくそれらの指導に対して一言の助言もなされぬであろう。兵は、ただ、野の一束の草の花をむしっては、教卓のつぼに投げ込むくらいが関の山である。

ここでは、野と人の間に、人と人の間に、無為にして化す風懐が、すでに深々と培れているのである。

でない限りは、一張羅を謄写版の墨たけにしたり、「工作・国語教育」という毎月の研究誌は、とうとうい生れつこはないはずである。

## 6、批評会

僕はすいぶん多くの研究授業とすいぶん多くの批評会を見た。しかし、

この学校の批評会ほど、たいたたり、たたかれたりして、愉快に笑い合えるのは初めてだった。授業に自信あり、真理に弁解がないからである。

だからお互い同志の批評を聞いていても、「熱と愛を持つて」とか「明朗である」とかの、感情批評がないのである。話の間に「ああそうか、判った」と合の手が入る。それはそのまま、明日からの実践の光となるのである。宮城県の国語教育は、今何歩目の発足を控えている。恐らくこれが、この真理への愛情が、発足の白いラインをさわやかに引くのであろう。

## 7、蕃山の詩情

蕃山に夕霧が流れてきた。楢の林も、落葉松林も、白く煙って、高原の丘々の上に、赤い灯がまたたき始めた。

——おい、頼んまずぞ、頼んまずぞ、好い先生どもでなアと、小使のおんつあんが、僕の手を握りしめるのである。門之助君も、澤畑君も、彼おんつあん氏の息子と同じだといふのである。そして僕が彼らのやぐざな兄貴と同じであつてみれば、彼らは僕に頼まらすべき宿命を持つていると、使丁氏は云うのである。僕はこの純情素朴な使丁氏の手を強く握り返したのである。

世の多くの学校においては、使丁氏は教員より一級下である。使丁氏

は多くは初段の黒帯を貰い得ぬのみか、対抗試合などは、さらさら出ることができないのである。しかしながら、ここでは、使丁氏はむしろ主将であるのである。ああ、なんと、自然と人が、人と人が、その本然の高貴なる魂において結ばれていることよ。

だから僕達は、使丁氏を中には喜んで、上愛子まで、すでにとつぷり暮れてしまつた宿場町を、深い夜霧を吸いながら歩いたのである。

米をといでるおかみさんや、馬の飼葉を切つてる子供らが、

——さようなら、と挨拶する。門之助君はなにかと立ち入つた生活の言葉返し、使丁氏は、

——めし、またかあ、と怒鳴つて、それから、

——頼んまずぞ。と横澤さんの手を握るのである。汽車に乗つてからまで使丁氏は強く僕をたたき、さて席が定まつてホツとす僕たちに、高橋女史はベン当を出して一飯の恩義を強要するのであつた。

\* 1934年9月発行「国語教育研究3号」に掲載された廣瀬の研究会前の学校訪問記である。報告者「丘幾之助」は鈴木道太さんのペンネームと聞いたことがある。多くの旧字体と旧かなづかいが編集部で直している。